診療科長に聴く

循環器内科編

Vol.10

循環器内科　教授
シイナ　カズキ
椎名　一紀

本日は、循環器内科の診療科長である椎名一紀教授にお話を伺います。

Q：循環器内科の診療科長である椎名先生の専門分野、学会の役員や授賞歴もお願いします。

A：専門分野は、動脈硬化性疾患、高血圧、心不全、睡眠時無呼吸症候群です。所属学会では、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医（関東甲信越評議員）、日本心臓病学会特別正会員、日本高血圧学会専門医・指導医・評議員・編集委員、日本睡眠学会総合睡眠専門医、日本循環器予防学会評議員として活動しています。また、東京医科大学佐々記念賞、日本血管不全学会優秀演題賞、日本高血圧学会クリニカル実地医家アワードなどの受賞歴があります。

Q：椎名先生が力を入れている診療、あるいは診療技術、治療はどのようなものでしょうか？

A：循環器の病気の中でも最も多く、命にかかわることがあるのは、急性心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患です。これらに対するステント治療（PCI）は、当科の医師全員が行うことができます。このほか、循環器疾患と深い関わりのある睡眠時無呼吸症候群や高血圧など、予防の分野にも力を入れています。また、2026 年より日本でも開始される予定の、降圧薬を飲んでも血圧が下がりにくい治療抵抗性高血圧に対して、カテーテルを用いて血圧を下げる治療（腎デナベーション）があります。この治療は高血圧専門医がいなければ行えませんが、当科は茨城県でも数少ない高血圧専門認定施設として、速やかにこの治療を開始する予定です。

Q：循環器内科は、どのような疾患を対象にしていますでしょうか？

A：主な対象となる病気は、急性心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心房細動や洞機能不全などの不整脈、心不全、大動脈弁狭窄症などの弁膜症、心筋症、高血圧などです。また、近年新しい治療薬の開発が進んでいる心アミロイドーシスについても、診断に用いられるピロリン酸シンチグラフィを当院で実施することができます。

（裏面に続く）

東京医科大学茨城医療センター
〒300-0395　茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1 / TEL 029-887-1161
各診療科外来担当医につきましては、当院ホームページをご確認下さい。
https://ksm.tokyo-med.ac.jp/
紹介患者・医療連携については、総合相談支援センター　医療連携まで

（表面から続く）

Q：循環器の疾患に対して、どのような診療技術を駆使されているでしょうか？また血管内治療などの手技の件数もお願いします。
A：冠動脈疾患に対するステント治療（PCI）は、年間約 200 例行っています。また、徐脈性不整脈に対するペースメーカ植込み術は年間約 30 例、閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療（EVT）は年間 20 例程度実施しています。近年では、患者さんへの負担が少ないリードレスペースメーカによる治療も開始しています。

Q：医師数と主な医師の専門分野や得意な診療内容について教えてください？
A：現在、私を含め 8 名の循環器専門医が診療にあたっています。阿部憲弘先生はペースメーカ外来の管理を担当しており、小松靖先生と田谷侑司先生は冠動脈ステント治療を中心としたカテーテル治療を専門としています。また、より複雑な病変に対するカテーテル治療については、東京医科大学病院（新宿区）の循環器内科と連携して治療を行っています。

Q：大学の循環器内科として、行っている研究活動にはどのようなものありますか？
A：睡眠時無呼吸症候群は、高血圧や心不全、不整脈を合併することが非常に多く、当院では睡眠呼吸障害センターと連携し、その関連性について研究を行っています。また、近年注目されている手根管症候群と心アミロイドーシスとの関係については当院整形外科の吉井雄一教授と、心不全と口腔ケアに関する研究については当院歯科口腔外科の松尾朗教授と、それぞれ共同研究を進めています。

Q：患者さんを診る上で診療のポリシーとしているものは、何でしょうか？
A：なにより、急性心筋梗塞をはじめとした心血管の病気は、どれだけ早く診断し治療を始められるかが、生死を分けることがあります。そのため、24 時間 365 日、循環器専門医が対応できる体制を整えることが最も重要だと考えています。

Q：受診する患者さまに一言お願いします。
A：循環器の病気は、早い段階で適切に診断・治療を行えば改善することが多い一方、我慢して受診が遅れると命にかかわることがあります。胸の痛み、動悸、息切れ、むくみなどの症状がある場合は、我慢せず、なるべく早めに循環器内科を受診してください。